



とつか 2023年9月会報 第347号

国際会長(IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

2023 主 題 “Let Your Light Shine” 「輝かそう、あなたの光を」

スローガン“Good Communication is the Cornerstone in Every Cooperation”

「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

アジア太平洋地域会長(AP) 利根川 恵子 (川越)

~ 主 題 “Be the light for change” 「変革のための光となろう」

スローガン“Shine and empower through fellowship” 「親睦を通して、輝き、力を得よう」

東日本区理事(RD) 山田公平 (宇都宮)

2024 主 題 “Instil Confidence in our Youth!”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

スローガン“Youth Empowerment through SDGs Youth Action”

「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」

湘南・沖縄部部長(DG) 黒川 勝 (金沢八景)

主 題 主 題 “初心に帰り、新たな船出に踏み出そう” 副 題 「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

クラブ会長 吉原 訓 主 題「原点回帰」:副会長若木一美・書記 加藤利榮・会計 岡 進・メネット 吉原和子

会員ひとこと

☆ 人間の営みの変化 ☆ 岡 進



猛暑に対応して夏の催しが延期されたり、日中の祭りが夕方に変更されたりしている。また、コロナに対応しオンラインを執り入れたイベントも定着している。

気候変動や感染症など、元はといえば人間の営みの影響を受けたものが、人間の行動に再影響を与えている。一方、人間の社会風習や行動パターンの変化は、より直接的に我々の営みに影響を及ぼすであろう。

例えば、YMCAのバザーもコロナ対応で接触を控えるだけでなく、社会の変化に対応して変化するのだと思う。昔は家で不要となった贈答品や中古の服など定番モノを販売し、買う方もそれを安く買って満足した。

今はモノも多様化する一方、家で不要となる贈答品も少なくなり、買う方は好みの品であれば、少々高くても買い、こだわらない品はネットを活用して安く買う。これにどう対応していくか不明ではあるが、あまり知られていない地方の名品など、付加価値のあるものを出すとか、モノだけでなく楽しみを売るなどの工夫も要るのではないか。同時にバザーの収益を何に使うのかという目的と具体的な使途を、きちんとアピールすることも大事だと思う。

◎ 今月の聖句 ◎

主は人の一歩一歩を定め 御旨にかなう道を備えて
くださる。

—詩編 第37章23節—

主は私たち一人ひとりの歩みを見ておられます。人生の祝福は、その長さよりもその内容にあります。主を愛し、主を喜び、主に喜ばれるそのような道より優れた道は他にはありません。

私たちを最高に生かし、用いてくださる主にこの人生をささげたいと願います。

強調月間

EMC

Extension, Membership & Conservation
【新しいクラブの設立、会員の退会防止、新会員の獲得】
この3つはワイズ積年の課題です。
お知り合いの方やご友人を、是非ご紹介ください…。

~ 8月の会合実績 ~ 会員数：11名

(8月は、例会は休会でした。)

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

★強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う★

☆ 久しぶりに納涼会が… ☆

若木 一美



4年間のごぶさたでした！ 吉例「横浜クラブ」主催の納涼例会が戻ってきました。8月24日、ロイヤルホール横浜に東京多摩スマイルクラブ・鎌倉・横浜とつか・厚木・金沢八景・横浜つるみに12名のゲストを加え、総計46名が集いました。

定刻の18時、ホスト役の古田横浜クラブ会長の開会点鐘からセレモニーは始まり、佐竹ワイズの食膳感謝、そして、長老加藤利榮ワイズによる乾杯のご発声で、(ご本人は‘長老’ではなく、サムエル・ウルマン作の青春です！…と申しておられます…) 楽しいひと時の始まりです…。

しばし飲食・歓談ののち、お馴染み富山姫路子さんのフルート演奏、伴奏はいつもご一緒の秋山由三子さん、バッハの無伴奏チェロ組曲など5曲の名演奏を聴かせていただきました。

宴が進むにつれ、どのテーブルでも、「お久しぶり、お元気？」などと会話が弾み、賑やかな盛り上がりを見せております…。また、「ゲスト紹介」の中で、かつて、とつかクラブの担当主事をされた長田光玄さんが、現在、横浜中央YMCAの館長に就任されており、心からのお祝いのご挨拶を交わしました。

宴も盛り上がったところで、厚木クラブ・小松ワイズによるトランペットの演奏、ニコロソの‘夜空のトランペット’を思い出しておりました。また、東京多摩の伊藤幾夫さんからはギター演奏があり、かつてのコロヘイマムラ率いるハワイアンバンドの演奏が脳裏に蘇ってきました。

宴半ば、参加クラブの紹介やそれぞれの代表からのご挨拶などもあって、その都度大きな拍手に包まれておりました。

横浜クラブの古賀ワイズによるメイ司会により、会は終始和やかに進み、定刻の20時、全員、集合写真に納まったのち、古田会長の閉会点鐘により、楽しく・盛り上がった会は、その幕を閉じました。

‘場内からはお早めにお引き取りを…’といった趣旨の案内が施設側から流れ、お別れのご挨拶もそこそこに、熱気の冷めやらぬ会場を後に、帰路に就きました。



☆ ワイズの法人化に思う ☆

若木 一美

今から2年余り前の2021年6月11日に開かれた東日本区年次代議員会で、ワイズの「一般社団法人化案」が上程・可決され、同年7月から、私たちのワイズメンズクラブは、「法人」・「任意団体」と、二つの顔を持つグループとして発足、すでに丸2年が経過しました。

法人の社員は、東日本区に所属する団体及び個人から選定されることとなり、また会費等は会員総会において別に定める、社員総会は全会員をもって…等々の事項が定款で定められています。しかし、現在の実情を見ると、ワイズは任意団体の定款として運用されており、ここに私たちの組織・運営上の課題が見え隠れしているように思われます。

現在、法人推進委員会において様々な検討が行われているようですが、ワイズの認知度が上がる・法人格を有する団体なので安心して会員になることができる…といった意見がある一方で、私たちのクラブが、2008年以来支援している大下さんのユニーフ活動において、先ごろ来、クラウドファンディングの名目で500万円の資金を生み出し、鎌倉・建長寺からの理解・協力により、目の不自由な方が同寺の本堂を模した模型に触れることにより、観光の楽しさや理解を産み出すという活動を、絵本の点字化の活動とともになさっておられますが、一分野に特化した活動とは申せ、社会的に認知されたしっかりした立派な活動だと思います。(右写真)

ところで、かつて私が関係して作った法人は、指定管理者への応募や行政・企業などとの連携事業のためにNPOやその他の法人を作ったため、従前の団体は何れも発展・改組ということで、解散されています。

法人になったから何ができるか、考えよう…でなく、何をしたいのか？、その目的達成のためには、果たして法人格が必要なのか、どうなのか？…ということだと思います。

法人で思い出すのは、かつて県内のある団体がNPO法人となり、従前の組織はそのまま残した団体がありました。しかし、その団体は運営上の問題が出て、多くの会員が退会してしまいました。これをみるにつけ、私たちのワイズはこうならないようにしたいものだと、日ごろ考えております。

皆さまは いかがお考えでしょうか…。



特別寄稿

☆ 一緒に やりませんか… ☆

湘南・沖縄部 部長 黒川 勝



7月からいよいよ本年度がスタートしました。22日には早速第1回目の評議会を戸塚のYMCAをお借りして開催し、終了後にはとつかクラブの公式訪問として例会に参加させていただきました。

とつかクラブは、私が所属する金沢八景クラブの親クラブということもあり、加藤さんや浦出さんなど15年来のお世話になった先輩たちや、横浜市会議員の大先輩でもある吉原会長による素晴らしい進行の例会は勉強になりました。また、視覚障がいのある子どもたちが健常者の子どもたちと一緒に楽しめる絵本や鎌倉の建長寺の模型の作成に取り組むUni Leafの取り組みも学ばせていただきました。

部長としての公式訪問も、それぞれのクラブに伺わせていただいているのですが、クラブごとに運営の雰囲気やメンバーに個性があり、その中から生まれる事業にも特徴が出ていて、とても勉強になります。

ウクライナでの戦争が小麦やガソリンの高騰など日々の生活に直結する時代において、世界中のワイズメンズクラブやYMCAとのつながりを持つ私たちの団体は、地球上の様々な課題に対して貢献する奉仕団体でありながら、それぞれのクラブが地域に密着してYMCAとともに青少年の育成や障がい者の支援などにも取り組む団体でもあります。世界に対しても地域社会に対しても何か貢献をしたいと考えている人は少なくないはずですし、そういった人々を仲間として迎える工夫が出来ないかと思っております。

例えば、各クラブの事業をクラブのメンバーだけで行うのではなく、まずは私たちの仲間のクラブにも参加を呼びかけてみてはどうでしょうか…。更にはそれぞれのクラブにつながるYMCAに通う子どもたちのご両親やおじいちゃんおばあちゃんにも一緒にやりませんか…と声をかけてみてはどうでしょうか。気心の知れた仲間だけで行うのではなく、少しずつ外からの協力を仰ぎつつ、新しい仲間の輪を少しずつ広げていくことに挑戦してみてもどうでしょうか…。私たちの仲間に加わってくれる人はきっと私たちのそばにいるはずです。(以上)

(黒川部長さま ご多用中のところ 示唆に富んだ有意義な玉稿 賜り、誠に有り難うございました。

「あとは、〇〇あるのみ…」ですね…。 (T/k)

清涼随想

☆ おせっかいプロジェクトに思う ☆

湘南とつかYMCA館長 薩摩 藤太



明治学院大学横浜キャンパスは戸塚区内の「横浜 YMCA ワークサポートセンター・アンジュ」のすぐ近くに立地し、毎朝、多くの学生が戸塚駅からバスに乗って通学する様子を見かけます。

私たち湘南とつかYMCAも戸塚地域の一員として、戸塚地域と明治学院の学生をつなぐ「戸塚おせっかいプロジェクト」に参加しております。先日も、その活動の一環として、学院大生からインタビューを受けました。

以下はそのやり取りの一部です。

[このプロジェクトに関わってくださる理由、期待していることは…。]

今の学生には、「きっかけ」が必要であると感じます。経験をしたことがないところへ飛び出すことは怖いと思います。湘南とつかYMCAでは、今の若い子たちが世代の異なった人たちとの関係を構築するための「きっかけ」となる機会をたくさん用意しております。

[どのような‘おせっかい’をしたいと考えているか。] 一番大事なことは、利害関係がないこと、そして選ばない権利が残されていること、つまり、選択肢は多く提供しますが、その選択肢に向かって自ら行動し、‘ガクチカ’（学生時代に力を入れたこと）にするか否かは自分次第だといいます。地域に利害関係のない人々と直接、関わること、バックグラウンドが異なる人との会話はとても大事なことで、そのような機会に参加していただき、その大切さを感じ取ってほしいと思います。そして、YMCAのリーダーたちの、活動での成功体験が、その後の自己形成に大きく影響している現情を見ていただければ、「とにかくやってみようよ…！」と強く誘いたくなるころかとは思っています。

これからは、‘大学生の二人に一人は奨学金を利用し、卒業・就職後に返済’‘コロナ禍でリアルなコミュニケーションの不足や人と人とのつながり方の変化’等々、今どきの若者を巻き込む実情を踏まえ、彼らの声に耳を傾けつつ、

「みつかる。つながる。よくなっていく。」

を丁寧に伝えていきたいと思っています。

以上

薩摩館長様

キャンパスとのおせっかい、乞う、ご期待でしょうか…。

《アンジュ通信》

☆ 戸塚スポーツセンターへ… ☆



アンジュでは、8月5日(土)、戸塚スポーツセンターで開催された‘とつかこ夏祭り’‘子育て支援拠点’主催のイベントに参加しました。一般のお客様への販売は4年ぶりでした。

当日は、多くの来場者でにぎわい、用意した商品を完売し、こうしたイベントの参加に自信をつけることができました。

横浜 YMCA ワークサポートセンターアンジュ 相馬 良文

地域の皆さまにアンジュのパンを直接、手に取っていただく機会に恵まれ、心から感謝のひとつでした。





担当主事 瀬戸俊孝

湘南とつかYMCAでは、8月に1週間の休館を利用して、館内の施設の点検とプール掃除を行っています。

湘南とつかYMCAのプールは5コース、25mの一般のプールと同じくらい大きさですが、床が可動式になっています。幼児が利用するときは60cm、ダイビングやアーティスティックスイミングを実施する際には、一番深い水深4.1mまで下げることがあります。総水量は約720tになります。通常のプールの3倍の量に当たります。したがって、1年に1回だけは水をすべて抜いて、プール掃除を行います。水の抜けたプールは、プールサイドに立つのも怖いくらいの深さがあります。

掃除後、水を入れ替えきれいになったところで、気持ちよく運動いただきます。大掃除の終わりは、感謝会の意味も込めスイカ割りを行いました。感謝実感の一日でした。



- ◎ 第1例会：9月23日(祝・土)14時～1時間程度
当日、横浜YMCA フェスタ(下記)を開催中
- ◎ 第99回YMCA-Y's協議会：9月5日(火)19時・中央608
この会は、今回で99回となりました。鎌倉クラブが担当します。したがって、次回12月5日(予定)は第100回・‘とつか’の担当になります。
- ◎ ‘横浜YMCA フェスタ’のご案内
日時：2023年9月23日(祝・土)
会場：湘南とつかYMCA・1階ホール・2階各教室
内容：横浜YMCAをもっと深く知り、仲間を見つけ、つながってついでいくことを目標に開催します。
多くの仲間とともに交流し・学ぶ機会を持ちたいと企画しました。
当日は、プリテンでお馴染みの、相馬さんのアンジューも出店の予定です。



トピックス ～‘かかし’の独り言’から～
(その一) ハナことば

- ▲ ひまわり・向日葵：「あなたを見つめる」「憧れ」
- ▲ あじさい・紫陽花：「移り気」「浮気」「辛抱強さ」
- ▲ ききょう・桔 梗：「変わらぬ愛」「誠実」「清楚」
- ▲ は ぎ・ 萩：「内気」「柔軟な精神」「想い」
- ▲ く す・ 葛：「活力」「努力」「恋のため息」

(その二) ‘油断大敵’って…

滋賀県大津の比叡山延暦寺のみ堂に千年以上にわたって途絶えたことのない「不滅の法灯」があり、これを消さないよう、僧侶が毎日欠かさず油を足し続け、一度でも注ぐのを忘れると灯が消える…。

(その三) ‘線状降水帯’は…

発達した積乱雲が停滞して線状に連なり、極端な集中豪雨をもたらす原因となる気象用語で、30年ほど前に起きた「広島市土砂災害」がこの用語の始まりとか…。長時間にわたり停滞することもある。

(その四) ‘カップル’にただ感謝…!

8月5日(土)夜、茅ヶ崎での花火大会のあと、混み合う東海道線、大船駅手前でガタンと急停車。車内真っ暗…!と、お隣の若いカップルが何くれと…。気が付くと救急隊のタンカが…、カップルの心遣いに胸にこみ上げるものが…のひと時でした…。

(後記) センジョウコウスイタイ…やっと耳慣れたコトバに…。(t/k)

【今月の歳時記】 “案山子・秋澄む”

かかし：農作物を鳥獣の害から守るために、竹やわらを材料として人の形を作り、蓑傘(みのかさ)を着せ、弓矢などを持たせて田畑の中に立てて鳥獣を脅す。一名、山田の僧都ともいう。鳴子、鳥威しなどもこれの類である。

夕焼のあへなく消えし案山子かな 万太郎
夕空のなごみわたれる案山子かな 風 生
倒れたる案山子の顔の上に天 三 鬼

秋澄む：秋になると、空気が澄んで遠くの山がよく見える。秋に日本の近くを低気圧が過ぎたあと、大陸方面から移動性高気圧がやってくるので、上空のゴミの少ない空気がおりてきて、空気が澄むのである。また物の音も澄んではっきり聞こえる。

秋澄む日さし入りがたし黒部川 秋櫻子
霧青れて岩場の修羅も秋澄みぬ 吐 天
秋澄むや楡の木早き実を落とす 桐 明
水深く秋澄む関のかざり鏡 蓼 太